



「五ヶ瀬中学校校歌より」

学 び 舎

五ヶ瀬中学校校長室だより
令和 元年 7月 19日
No. 4
文責：校長 戸 敷 二 郎

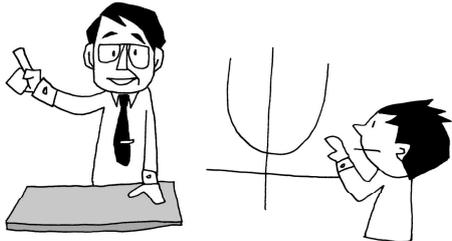
令和元年度の1学期が終了しました

平成から新しい元号の「令和」へと移り変わった1学期も、無事に終業の日を迎えることができました。今年も毎日の授業を中心にしながら、各学年の段階に応じた様々な取組を行って参りました。

その中でも、五ヶ瀬教育グランドビジョンの流れに沿った取組は、小学校段階からのつながりを考慮し、時代の変化に対応するように細やかな見直しをしながら進めています。

生徒達は、どの取組においてもその目的を自覚しながら全てに真剣に取り組んでくれました。この真剣な姿勢こそ、どこに対しても自慢できる本校生徒たちの一番の資質であると感じています。よく頑張った1学期でした。

1学期のおもな取組 (太字は新規事業)			
月	1年生	2年生	3年生
4月	みやざき学習状況調査		全国学習状況調査
	県数学テスト		家庭訪問
	県英語テスト		
5月	避難訓練 (地震)		
	Gテック英語テスト		GDP講話
	茶摘み体験	JRC登録式	生徒総会 職業人講話
	農業体験準備	修学旅行準備	実力テスト
6月	伝統芸能教室 1回～4回		
	地区中体連総合大会	期末テスト	町鑑賞教室
	農業体験学習	修学旅行	防災体験学習
7月	伝統芸能教室第5回		教育相談
	体育大会役員決定	塾との連携授業 2日間	



塾との連携授業

3連休明けの今週火曜日、水曜日の2日間にわたって「塾との連携授業」が行われました。この取組は五ヶ瀬町からの支援を受け、現役の塾の講師を招いての本格的な「塾での授業」を展開してもらっており、本年度で8年目の長い取組となっています。

町場とは違い、塾のない五ヶ瀬町に暮らす生徒達にとっては、年に1回のこの体験は貴重な刺激を受ける機会となっています。塾での授業は受験対策に特化した側面が強く、「解答の早さへのコツ」や「点数の取り方」など、日頃子供たちがあまり意識しない要素を「テスト対策」として盛り込まれており、来たるべき入試に向けての自分の学習への姿勢や、今後の取組方法 (計画的な入試対策) について考えるよい機会となっていると思います。

午後からの講話では、夏休み中の学習計画の立て方や生活リズムの大切さなどについても話していただき、五ヶ瀬町の取り組む「早寝・早起き・朝大豆」の取組についても、学習の定着を図る上で「睡眠時間」を確保することの重要性に着目した素晴らしい町民運動であると評価され、子供たちも更にこの運動への意欲を高めたところでした。また、最後に見たメジャーリーガーのビデオも感動的でした。

改めて、このような機会を長年確保していただいている町当局に対して感謝したいと思います。

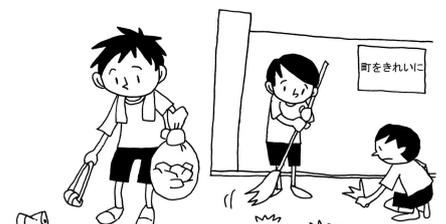
五ヶ瀬町夏祭りへの「参画」!

8月17日 (土) に開催予定の「五ヶ瀬町夏祭り」に対して、実行委員会から「出演依頼」が参りましたが、「出演」については校長としてお断りをしました。理由は、小学校と違い、部活動や体育大会に向けての準備など少ない全校生徒で取り組む休業中に、祭りへの演技練習などの余裕がないことです。

しかし、大人と対等な立場での祭りへの「参画」であれば、短時間ながら準備を進め、地域住民の一人としての役割を果たさせたいと考え、祭りで発生するゴミの回収と分別について本校生徒と中等教育学校生徒に任せてもらえることになりました。久しぶりの夏祭り、大人の実行委員会も戸惑いがあるようですが、地域の中学生・高校生としてしっかりとサポートさせたいと思っています。

今回、本校からの実行委員長として栗山耕輝君、企画委員長として飯干柊太君、実務委員長として佐藤祥生君、中等学校との連携委員長として池田なつほさんが立候補してくれ、第5回の夏祭り実行委員会 (夜間開催) にも出席してくれています。今後、何回かの話し合いと作業を経て、中学生なりに計画を進めて参ります。

祭り前日そして当日の子供たちの活躍に期待をしましょう!



「主体的・対話的で深い学び」

～夏休みこそ、この姿勢が大事です～

今年の「学び舎No.2」でも後半に触れた今回のテーマです。この言葉は次のような経緯で新しい学習指導要領の中に盛り込まれました。もともと、大学教育改革の話合いの中で



「我が国の大学教育では**一斉講義型の授業が主流**であった」ことを反省し、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力をもった人材を育成する」ために用いられた言葉が「アクティブラーニング」という言葉でした。



当初、この「アクティブラーニング」という言葉を使って小中学校等の学習指導要領の改訂に向かっていたのですが、今ひとつ改訂の意図が伝わりにくいといった意見もあり、「**アクティブラーニング**」を「**主体的・対話的で深い学び**」と表現し直すことになったのです。

子供たちはすでに膨大な知識を持っているのだが・・・

中学生にしる小学生にしる、子供たちは日々の生活経験や授業を通して、かなりの知識を持っています。これを**既有知識**と呼びます。ただ、子供たちが持っている既有知識は、いい線はいつているが不正確であったり断片的であったりします。そのような状況にある既有知識を、洗練させたり統合してつなげたりしてあげる役割が私たち大人にはあると思います。その大きな役割を果たしているのが学校であり教師による授業なのですが、明日からは夏休みです！



学期中は慌ただしく、ゆっくりと**家族の会話（対話）**をする時間も見つけにくいと思いますが、夏休み中は普段に比べればかなりこのことに時間を使うことが可能だと思います。また、日頃は会うことのない親戚のおじちゃん、おばちゃんや年齢の近いお兄ちゃんやお姉ちゃんなどの会話の機会も十分に期待できます。更に、学期中は日程的に難しい**体験的な活動**も計画できる可能性も増えてきます。体験を共有した間柄での対話は共感度も高まり、**より深い学び**へとつながっていくことは過去の子育ての経験からも実感されているのではないのでしょうか？日帰りのレジャーや家族旅行、家のお手伝いや地域行事への参加など何でも共有できればOKだと思います。

「子供は夏休みだが、こっちは相変わらず仕事、仕事だ！」というお叱りの声も聞こえてきそうですが、先にお伝えしたように既有知識を洗練させたり統合してつなげたりする役割は大人にあります。意図的に経験や対話の場を設定していただき、この夏休みに1つでも2つでも子供達の学びが深まり、知識の統合が図られるようにご配慮いただきたいと思います。

どうすれば主体的に学ぼうとするのか？

これまでお伝えしてきた体験や対話は、こちらが意識すれば何とか設定できるものの、子供が**主体的な学習者になる**ことへの手立ては難しいところです。ただ、様々な意見を集約すると「**学ぶことの意味や意義を見いだした者は、自ら求めて学ぶようになる**」といった方向性は間違いなくあるように感じています。本校でも五ヶ瀬教育グランドビジョンや学校単独の事業などを通して「**学ぶ**



ことの意味や意義」を追求させています。職業人講話、卒業生の声を聞く会、GDP発表などなど、なぜ学ばなければならないのか？といった個々の問いに対するヒントや答えにつながる考え方などにたくさん触れさせています。

いずれにせよ夏休みの期間中は普段より少しだけ時間的な余裕があります。先にお願ひした「対話」に加えて、多様な価値観や生き方に触れる機会としての読書の時間確保や名画などを観る機会なども設定していただき、子供達が主体的な学習者となっていくためのご支援をお願いいたします。

昨年度の夏季休業前通信でもお願ひした、メディア利用ルールの順守と安定した生活リズムの維持にもご支援をよろしくお願ひいたします。